

読者のこえ 中学生の時、席替えがあり、なんと教壇のまん前に! でも、好きだったひとが隣になつたので、幸せのような何とも複雑な気持ちになりました。(住之江区 20代)



これまでにない「参加・体験型学習パネル」ができました。学校、幼稚園、保育所、子ども会などでぜひ活用ください。

いまの子どもたちにとって「ともだち」って何だろう? どう考えているのだろう?

この学習パネルは、これまでの展示型の「見て学習する」パネルとは違い、見る・聞く・貼る・話す・書く・考える・つなげる等、五感をはたらかせて「ともだち」について考え直す、「ともだち」の大切さに気づく、「ともだち」をつくるための3つのテーマを目的に作成した参加・体験型学習パネルです。パネルを使って子どもの本音を引出すとともに、「ともだち」の大切さを考えるために最適の教材です。学校、幼稚園、保育所、PTA、保護者会、子ども会などでぜひご利用ください。

〈パネルのご紹介〉(一部)



「これってともだちかな?」

花はともだち? 虫はともだち? 「ともだち」のイメージが人によっていろいろであることに気づき、「ともだち」についての見方・考え方を広げていきます。



「どうする? どうしてほしい?」

3種類の「紙芝居カード」の場面を見ながら状況を把握し、相手の立場や自分の行動について考え、話しあうことができます。

【セット内容】

- ・パネル(サイズ B1版×6枚)
 - 「これってともだちかな?」
 - 「わたしのともだちはね...」
 - 「ともだち、どうしたの?」
 - 「どうする? どうしてほしい?」
 - 「ともだちになったよ」
 - 「いろんなともだちがいるよ」
- ・その他付属品
 - 指示棒
 - きゅーBOX(人形×1体)他
- ・使用の手引き(A4版)

3つの分野の6枚のパネル

この学習パネルは、「導入編」「感情表現・理解編」「人間関係の広がり編」の3つの分野と、各分野それぞれ2枚の計6枚で構成されています。子どもたちの年齢構成や人数、時間などを考慮しながら、6枚のパネルを自由に組み合わせ使用できます。もちろん、特定のパネルを重点的に使用する方法もあります。また、付属品を使用することでより有効な活用ができます。

子どもたちの本音を聞く! 多様性を認め合う

このパネルを使ってみると、子どもたちからたくさんの意見・考えがでてきて、子どもたちひとりひとりがそれぞれ違った考えを持っていることがわかります。その違いを認めあうことで、「ともだち」や他人との関係の持ち方について考え直すきっかけになります。

使用方法をご相談ください

総合生涯学習センターでは、使用方法のご相談に応じています。また、参考資料として、いくつかの実践を録画したビデオもあります。お気軽にご相談ください。



「ともだち、どうしたの?」



マグネットがついている7種類の「顔の表情カード」を自由に入れかえて、キャラクターの感情を考えてみます。



きゅーBOX(付属品)

子どもたちの考えを紙に書いて集めるためのものです。無記名で書かせることで消極的な子どもも参加しやすくなります。

- 【対象】 4歳～小学校低学年
- 【貸し出し期間】 原則として7日
- 【費用】 無料

【お問合せ】

〒530-0001 大阪市北区梅田1-2-2-500
 大阪市立総合生涯学習センター企画推進課人権教育係
 電話:06-6345-5009 FAX:06-6345-5019